

## 第4章 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが重要となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

### 環境市民会議とは？

八王子市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

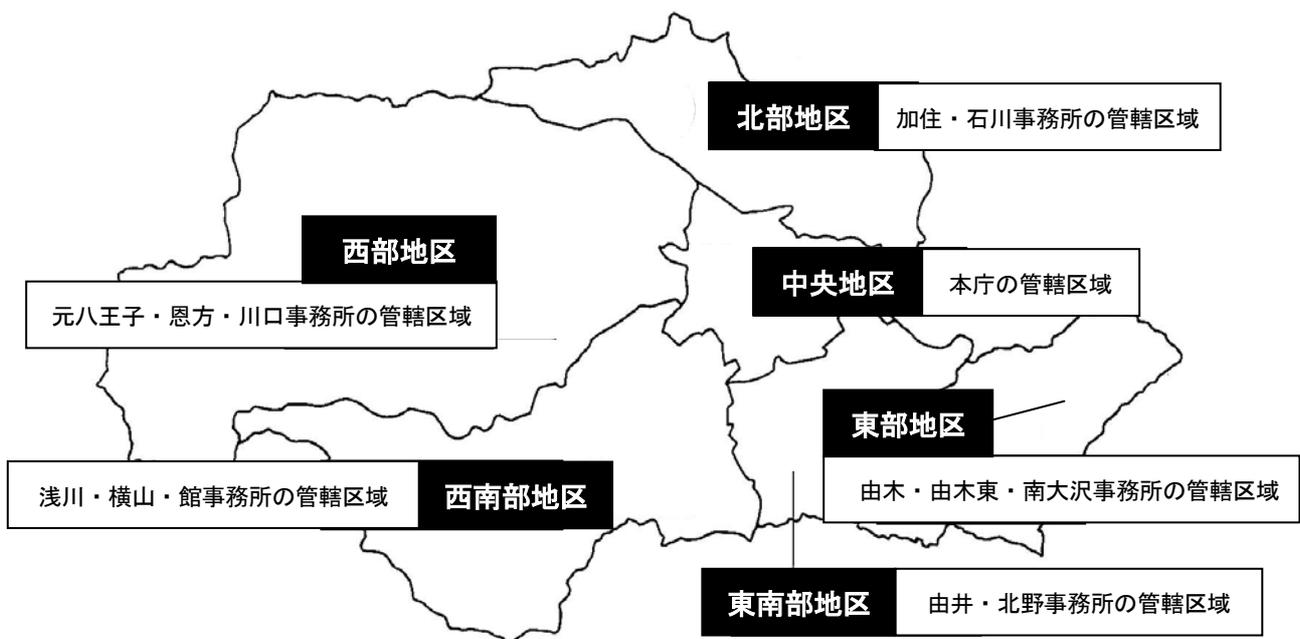
市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。環境保全の取り組みは、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議となります。

環境基本計画では、地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

この「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するため、その地区内の町会・自治会や事業者、各種団体との連携を図りながら活動しています。

### 【環境市民会議6地区の区域】



### 中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

浅川の水質は良くなり、魚や水生昆虫など水辺の生き物も増えつつあります。また、川で遊ぶ親子など、水辺に市民がいこいや安らぎを求める景色も増えつつあります。一方、八王子の中心市街地では、八王子駅南口やJRの踏切の立体交差などの開発は盛んに進みますが、道路や公園の緑はほとんど増えることはありません。そして、原発事故による節電の取り組みやプラスチックの資源化拡大など、省エネ・ごみ分別の啓発はますます重要な課題となっています。地球温暖化に対する関心は高いものの、市民の実質的な省エネ行動には至っていません。

#### ■ 環境フェスティバルへの参加

2010八王子環境フェスティバルでは、各部会が協力して出展し、多くの市民に中央地区環境市民会議の取り組みを紹介することができました。

#### ■ 河川環境

浅川巡回パトロールを積極的に実施し、会員に内容を報告すると共に、必要により関係行政へ報告と要請を行いました。

重点課題である浅川の清掃活動は、河川敷の水辺を重点に実施することはできませんでしたが、全国一斉水質調査や各種イベント実施の際に堤防や橋の下などを中心に清掃を行い、適宜ごみの収集に心掛けています。河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、より良い水辺環境を確保し、誰もが親しめる浅川であるようこれからも地道に努力していきます。

6月6日に全国一斉水質調査に参加し、浅川大橋と鶴巻橋真下の地点で水質調査を行いました。水質は年々改善され、2地点ともCOD (mg/l) は2と良好な状態を保っています。

9月11日に第6回自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を企画し、親子あわせ55名の参加がありました。当日は晴天に恵まれ、気温が31℃まで上昇し、水温も26℃で子供達は川に浸かって魚を追い、ボートで遊び「親子ともども楽しめた」と好評でした。

八王子浅川子ども水辺協議会への協力では、「ウグイの放流イベント」(第1回6月9日、第2回6

月11日、第3回6月15日) にスタッフとして延べ14名が参加しました。7月25日の「2010ガサガサ探検隊」に9名、水辺の環境教室に1名がスタッフとして参加しました。ウグイの放流を契機にかわ部会独自に取り組んでいるウグイの産卵場の造成を浅川大橋上流(5月10日)と川口川合流点(7月2日)で行い、浅川大橋上流の産卵場でウグイが産卵する成果を得ました。

小学校環境教育では、小学校2校の支援活動には延べ31名がスタッフとして参加しました。



浅川の清掃活動



浅川ふしぎ探検

## ■ 大気汚染測定

大気汚染の測定を10ヶ所で行ったところ、環境基準の値を超える場所はありませんでした。これまで13回行った測定の平均では、国道16号バイパスや20号の一部で環境基準の値を上回っており、今後も測定を継続していく必要があります。

## ■ まちのみどり・まちの美観

JR八王子駅北口から桑並木通りを北に向かって浅川まで、浅川大橋南詰めから西に浅川沿いを歩き、田町の通りからみずき通りに出て南下し、西放射線ユーロードから八王子駅北口に戻るコースでまちなかウォッチングを実施しました。富士見通りの街路樹がなくなってしまうことは残念でしたが、いちようホール通りとパーク壱番街通りのナンキンハゼは、淡い緑色に下向きに連なる葉の姿が残暑に涼しげな景色で、参加者の気持ちをいやしました。

北部地区環境市民会議との共催で行った大谷緑地の自然環境調査では、30名近い参加を得て土虫を観察し、自然度を測定しました。

市役所前通りおよび元横山公園アドプトにおいては、会員の参加による支援を行ってきました。



まちなかウォッチングのマップ



子安市民センターでの環境コーナー

## ■ ごみの減量・資源循環

4月のみずき通りフェスティバル、6月の環境フェスティバル、7月の中野七夕まつり、10月の子安・台町市民センターまつり、11月のいちようまつり、1月の西八ハイツ新春餅つき会に環境コーナーを設け、市民に「正しいごみの分別とごみの出にくい生活」を説明しながら、クイズを通して環境の情報を提供しました。

北野の環境学習室「エコひろば」では、定期的に清掃工場見学ツアーを行い、多くの市民が清掃工場の見学とごみ分別体験を行いました。

## ■ 地球温暖化防止

「エコひろば」を拠点として、環境変化の現状や市民に何ができるのかなどを説明する省エネ教室を計画し、6月にエコひろばで、3月に南大沢文化会館で実施しました。

3月に開設した八王子温暖化防止センターの、設立準備会に参画しました。



南大沢文化会館での省エネ教室

### 北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区には加住北、南丘陵に挟まれた谷地川が流れており、水質は19年度の下水道整備の完了に伴い少しずつですが改善され、上流部のきれいな水に棲むカワセミやサギ類、カモなども下流域で見られるようになりました。また、みどりの拠点である滝山公園や小宮公園、栗の須緑地を関係団体と協力して保全しています。なかでも、滝山城跡においては、城郭の歴史を探り、環境保全を行う目的で下草刈を行っているほか、独自に作成したガイドマップを使って啓発活動を継続しています。

### ■ 水

八王子の最も北側を流れる谷地川は、この地区の中央を横断する全長12.9kmの川です。

谷地川の水質（COD値、pH、電気伝導度）と水生生物の調査を2ヶ月に1回行っています。下水道の接続状況にはまだまだ課題が残っていますが、水質の改善や20種類以上の水生生物が確認されるなどの成果が表れてきています。



滝山橋付近での水生生物調査



滝山城跡を散策

### ■ みどり・生き物・景観

「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と共同し、毎年滝山城址の景観を保護するためのやぶ払いを行うほか、遺構と自然の調査を行っています。

八王子のルーツでもある滝山城跡の歴史的価値を広く都民に知っていただくため、自然体験講座や探索会なども毎年行っています。

### ■ ごみ

3ヶ月ごとに町単位の不法投棄巡回パトロールを行いました。

巡回パトロールを継続してきた結果、不法投棄場所の傾向がつかめ、不法投棄の発見もその報告も速やかにしたことで、かなりの改善がみられました。

また、谷地川の清掃を、毎年水質調査とともに実施しています。



不法投棄巡回パトロールで発見

## ■ 大気

簡易カプセルによるNO<sub>2</sub>の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に26地点で、夏・冬2回実施しました。交通量の多い幹線道路では環境基準を上回っているところも見られるなど、まだまだ改善の必要性があると思われます。

大気測定結果は八王子大気汚染測定ネットに報告し、各環境市民会議や独自に測定されている市民の方々のデータと比較しています。

## ■ 環境教育



環境教育支援の様子

環境教育の支援として小宮小学校の4年生を対象に、多摩川の水質や水生生物、植物や鳥、化石、昆虫など川の様子を調べる活動および資源再利用の体験学習を支援しました。

小宮小学校では7月、9月、10月の3回実施し、132名が参加、また、加住小中学校では11月の環境学習にも協力しました。

## ■ その他

2010年八王子環境フェスティバルに参加し、北部地区の環境の状況を展示するとともに、地区の自然度を表す谷地川の生き物を展示しました。天候にも恵まれ、多くの来場者に啓発することができました。

また、8月には、中央地区環境市民会議との共催で「大谷緑地で土の中の生き物観察会」を行いました。



八王子環境フェスティバルでの展示風景



大谷緑地土の中の生き物観察会

### 西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

古来より発展してきた地域では、歴史・文化も数多く残り、豊かな自然に恵まれ、多様な生態系が形成されています。

近年は、大規模開発や農林業の高齢化と後継者不足で森林荒廃や農地の宅地化が急激に進み、恵まれた自然環境も大きく改変しています。

地域を流れる醍醐川、案下川、大沢川、城山川、小津川、山入川、川口川は浅川の重要な源流として位置付けられていますが、自然地の保水力や浸透性が低下し、湧水の枯渇や河川流量の減少による瀬切れの発生箇所が増えている現実があります。市街化区域では生活排水が流入して河川の水質悪化が大きな問題になっていましたが、下水道整備と市民の環境意識が高まり、徐々に水質改善が図られてきています。不法投棄については相変わらず山間部で繰り返されているほか、一般道や河川にもポイ捨てが目立ち、町会・自治会、事業者、行政との更なる働きかけや連携が必要となっています。

懸案の民間産廃最終処分場計画は行政が土地を買収後、特別保護区に指定して保全する仕組みが検討されています。また、物流拠点計画も多くの課題が山積となっています。

### ■ 自然体験講座「北浅川と川口丘陵のふしぎ発見めぐり」(川口地区)

11月28日、川口地区に現存する古代と現代の接点を散策して地域に残された歴史・文化の良好な景観地を巡り、地域発見を通して身近な自然・知られざる歴史文化に親しんでもらいました。

コースは、川口事務所から長者の水棚、川口兵庫之助館址、北浅川溪谷、古墳にも見える南浅間や北浅間、貴重な子抱き土偶の発掘された宮田遺跡を巡るコースは、晴天に恵まれ好評でした。



北浅川溪谷で昼食

### ■ 学校と連携した体験活動(川口地区)

毎年行われる川口小学校5年生の農業体験(田植え、稲刈、脱穀、そして収穫米を精米して餅つき)に加え、9月11日(土)休校日に松枝小学校と川口地区青少対の連携で川口川の生き物調べを行いました。

先生や保護者も加わり総勢36名が水網や素手で生き物を捕まえ、生息種やCODパックテストで水質を調べました。川にはトビゲラ、イトトンボのヤゴ、ホトケドジョウ、シマドジョウ、特定外来種のアメリカザリガニ、ウシガエルのオタマジャクシなどが確認されました。



農業体験(川口小学校)



川口川の生き物調べ(松枝小学校)



特定外来種ウシガエルオタマジャクシ

## ■ 川口川水質調査と地域の井戸実態調査（川口地区）



行政と生活排水現地調査

川口川源流域までの15km間で、年2回定点15か所の水質、排水の実態、河床の水涸れ（瀬切れ）発生などのデータを取って、環境変化の様子が時系列で見られるようにまとめています。

渇水期の中・上流域で慢性的に発生している河床の水涸れや、豪雨時に保水性が低下した丘陵地や宅地化が進んだ地域では、河川流入量が急増する傾向にあり、防災上での対策が求められます。

また、水環境に関連して川口地区連合町会（17町会・自治会8,189世帯）と連携して井戸の実態を調査し、井戸の形式、使用状態、用途を調査した結果、417基の存在を確認することが

できました。今後は町会と連携して水質検査、防災上での活用などの検討を進めていきます。

## ■ マイバッグ普及に関する実態調査（川口地区）

マイバック持参率調査は店舗と連携して年1回実施しています。持参率は、年々微増していることから環境に対する市民意識の変化がみられます。しかし、レジ袋を廃止するには、利用者、店舗とも課題があり、行政、店舗、市民、そして隣接する市町村との連携や定期的な情報交換が行われる体制づくりが求められます。（マイバックの持参率調査結果はデータ集参照）

## ■ 地域の美化、清掃活動（恩方地区）

手作り公園の地域活動にも積極的に参加して、ごみ拾いや剪定などの美化活動に参加しました。

また、山間部の不法投棄の清掃活動は年中行事化して、地域、警察、他団体と連携した活動が定着しましたが、実態はなかなか改善されていない状況です。

今後も監視体制を継続しながら不法投棄を減らしていく取り組みを進めていかなければなりません。



不法投棄回収品

## ■ 大沢川のクリーン活動（元八地区）

大沢川は、不法投棄やごみのポイ捨てなどによる漂流ごみが多いことから中流域の柳橋から恵橋までを年4回（3月、6月、9月、12月）ごみ回収を行っており、今年度は、大沢川と合流している城山川（不動橋～めぐみ橋）の漂流ごみの回収を流域町会との協働作業で交互に実施し、ごみ5.6m<sup>3</sup>を回収しました。

なお、6月には全国一斉水環境調査に20年より連続して参加し、大沢川、城山川の水質検査としてCODパックテスト（D）を実施しました。この調査は今後も継続していく予定です。

## ■ ホタル保存会の活動（元八地区）

城山小学校付近でホタルが発見されたことをきっかけに、環境市民会議の主導で「城山小地区ホタル保存会」を発足しました。

活動としては、地域との協働で毎年5月に川掃除、6月にはホタル講座と鑑賞会を開催し、地域の子どもたちに自然を大切にする意識を啓蒙しています。

近隣の親子90人が参加し、ホタルの生きられる環境について知識を深めました。

今後も、地域の貴重な財産であるホタルの棲める環境を守っていきたいと考えています。



ホタル鑑賞会

## 西南部地区環境市民会議

### 西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの幹線道路の大気汚染、一部河川の汚れ、山間部における不法投棄などの問題を抱えています。特に最近、高尾山の入山者が大幅に増え様々な環境問題が発生し、貴重な自然が失われる恐れがあります。また、現在建設中の圏央道による環境への影響が懸念され、騒音、大気汚染および動植物などの自然環境を見守っていく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考える『エコミュージアム構想』に基づき「地域の宝の掘り起こし」や里山保全活動では池の沢館町緑地をベースに蛍観察会など各種体験講座の開催、地域の小学校を対象に環境教育支援に取り組んでいます。

また、開設が遅れていますが、旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して、市へ積極的に働きかけています。

地域の啓発活動にも力を入れており、市民センターまつりでの展示やいちょう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

### ■ 高尾山の保全

毎年定期の環境指標植物14本の樹勢調査(3/25)、高尾山のセッコク(6/7)やシモバシラ(1/5)の観察会で高尾山の環境変化を目視観測や写真にて記録し、追跡しています。

最近、高尾山への入山者が急激に増加し、トイレ不足、人工物増加の問題が顕著となり、また、自然への悪影響が心配されます。



高尾山指標樹木調査



地域宝起こしウォーキング

### ■ 地域の宝起こし

地域の宝を掘り起こし、再認識していただく自然体験講座(10/3)を実施し、27名が参加し、狭間、館、山田の自然・歴史・文化遺産を観察しました。

下見を行い、コース案内図と地域の宝の写真、説明文を作成し、当日参加者に配布しました。

### ■ エコミュージアムマップ

主に地区内の植物を調査し、高尾編および市街編とも情報豊富な内容の改訂版が完成しました。

### ■ 「高尾の里拠点施設」

高尾の自然科学博物館を考える会と合同で市と協議(1/14)を行いました。



エコミュージアムマップの1部

## ■ 里山保全

市100年史のための池の沢植物調査(7/13)には参加できませんでしたが、他の里山調査や湧水調査は計画のみとなりました。

国際生物多様性の日の植樹(5/22)、はちおうじ自然体験実行委員会主催(6/25)および当会主催(6/27)にて「蛍観察会」、自然体験講座「森の探検隊」(8/1)、緑体験交流事業(9/12)、企業の里山保全活動(10/16)および緑体験交流事業(2/20)を「池の沢に蛍を増やす会」と協働で開催しました。



緑体験交流事業

## ■ 流域の水質調査

毎年6月と12月の2回、湯殿川、大船川、殿入川、案内川、小仏川、南浅川、初沢川、山田川等20箇所の地点で水質調査(COD)を行っています。7年前の調査開始当時はCOD4~6が多かったが、一般家庭での雑排水の削減や市の下水管工事の施工などによって、全面的に河川の水質は向上の一途をたどり、現在では殿入川上流を除いてCODは0~1になっています。

また、川べりに棲む小魚の姿も多くなり、希少なホトケドジョウなども湧き水に近い草むらで簡単に見られるようになりました。大規模な護岸工事を進めていた湯殿川も和合橋下流にはホトケドジョウを始め多くの小魚の生息が確認されていますが、和合橋上流については水草の再生には時間が掛かると考えられます。御霊神社上流護岸工事については蛍の生息を期待しています。

## ■ 大気汚染測定

二酸化窒素の測定は7年経過し、全体的に測定数値は僅かではあるが向上しています。測定20箇所の平均値は19年で0.044ppmあったものが22年では0.030ppmになっています。要因はわかりませんが、渋滞の減少やエコカーの普及、運転者によるエコドライブの効果等が考えられます。

## ■ ごみ減量

ごみ量の削減に関する知識や情報のパネルを更新し、浅川、長房、横山南の市民センターまつりや環境フェスティバル等で啓発活動を行いました。

めじろ台南公園(約2千坪)では、堆肥槽を一基増設し、老人会や近隣の協力で落葉を集め一年かがりで堆肥化して、住民に配布し、家庭で出来る堆肥化の啓発と垂範をしています。

10月から開始された新ゴミの分別・収集に対し、市の出前講座を利用した説明会の主催と進行を務め、満員の会場では、出席者と熱心な質疑がなされました。



新ごみ分別説明会

八王子いちょう祭り環境委員会を主管し、都立八王子桑志高校の生徒210名や大学生ボランティアを指導して32万人の来場者と300余の出店者のごみ分別意識の向上に努め、資源物の回収を行いました。

さらに、ゴミの不法投棄の実態調査や日常の生活の中で楽しくごみ削減が経験できる「エコレシピ」の実習も継続実施しています。

## ■ 環境教育支援・地域環境診断

小学校を対象に環境教育支援に取り組んだほか、地域環境診断として河川の水質、水生生物、貴重な植物や蛍の生態などを継続して調査しました。

## 東南部地区環境市民会議

### 東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

みなみ野ニュータウン開発は一段落しましたが、周辺域での小規模開発により東南部のみどりは減少し、手入れの行き届かない放置された里山が見受けられます。

浅川水系の河川水質は、山田川下中田橋および浅川中央線上流を除いてCOD値2～3を示しています。河川をきれいな水にするには、徹底した家庭でできる水質浄化の取り組みや河川へのゴミのポイ捨てを止めるよう、啓発を続けていく必要があります。

街の美化に多少でも貢献しようと定期的に北野駅周辺の道路の清掃活動や湯殿川の定期清掃にも取り組んでいます。

大気汚染として、22年度は東京都一斉NOx測定に2回参加しましたが、16号バイパスでは数値の悪い場所が多く、今後とも注目していく必要があります。

### ■ 環境学習・啓発活動



竹いかだで浅川下りと川の生き物調査



小比企散策会で牧場見学

8月の夏の浅川自然体験講座（浅川で竹いかだ遊びと川の生きもの調査）では、子ども23名、大人19名、スタッフ20名、計62名と大盛況で、参加者からは、「こんなに生物がいるとは思わなかった」、「道具など十分にあり、たくさんのスタッフがいて安全に楽しく学習することができた」などの感想をいただきました。

また、10月に秋の小比企散策会を行い、「身近な里山の散策で、緑と牧場、歴史ある神社の発見があり楽しかった」、「今回のコースはとても良かった。多摩にものどかな広いスペースの田畑があるのを知った」などの感想をいただきました。

環境フェスティバルでは、地球温暖化にやさしいケナフの苗・種の配布や、丸太・竹プレートのお絵かき教室（130枚のプレート）を行い盛り上げました。



環境フェスティバル お絵かき教室

また、10月の由井市民センターまつり、2月の北野市民センターふれあい祭りで環境に関する啓発を行いました。

## ■ 河川・水質

6月(全国一斉)と12月に14ヶ所の水質調査の結果、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川は少しずつきれいになってきています。6月の浅川での「親子で川の生き物と水質調査」や8月の「浅川竹いかだ遊びと川の生きもの調査」では、親子で川の生きものと水質調査を行い、きれいな川・親しみやすい川・遊びたい川を実感してもらいました。

4月の浅川・湯殿川クリーンデー、7月の湯殿川クリーンデー、9月のみんなの川の清掃デー、11月の湯殿川クリーンデーを行い、川に関心を持ち、川を美しくする活動に大きな成果を上げました。

## ■ みどり・歴史景観

片倉台と北野台のみなさんと絹の道の拠点の大塚山公園アドプトによる清掃や御殿山尾根道を美しくする活動を行っています。

また、絹の道と小野路道のハイキングマップを配布し、市民に自然と歴史の散策を楽しんでいただいています。

## ■ ごみ分別・収集・リサイクル

市のごみ組成分析に立会い、データを分析、分別徹底の啓発資料を作成しています。資源可能物の混入率5%以下が望ましいと思いますが、入手したデータから市全体としては、可燃物の資源可能物の混入率は21年度の21%から18%と良化している反面、家庭系可燃物の地域別資源可能物の混入率は10~18%、事業系の規模別資源可能物の混入率は11~42%と地域によりばらついています。良化したのは、22年10月からプラスチックの資源化拡大と可燃・不燃の分別の変更、個別収集化が始まった影響なのか検証していく必要があり、重要な調査対象を決めて資源可能物の混入率を調べ、そのデータを有効に使いごみ減量・資源化に役立てるとともに、状況の変化を注目して行きたいと思います。

## ■ ごみのポイ捨て・都市の美観

地区内にある片倉・八王子みなみ野・北野・長沼・山田・京王片倉の各駅周辺道路19ヶ所でのきれいさ評価(ごみ拾い・分類・カウント)を7年間続けており、データ集のようにごみは減少しています。

19年1月に路上喫煙禁止条例が施行され、今後この条例の効果でさらにポイ捨てたばこが減少することを期待するとともに、地区の中心である北野駅周辺が同禁止地区に指定され、たばこの吸殻の落ちていないきれいな街になることを期待しています。

ごみは、植えこみや水抜き用の穴の中など、見えにくいところに目立ちます。たばこの吸殻は路上にもまだまだ捨てられていることから、きれいさ評価に加えて毎月1回第4月曜日の朝9時から街が美しくなることに多少でも貢献しようと北野駅周辺のごみ拾いを行っています。

## ■ 大気・騒音・地球温暖化防止

年2回のNOx簡易測定を実施しました。また、環境フェスティバルでは地球温暖化防止に役立つケナフの苗や種の配布を行い、各家庭に持ち帰って育てることで環境への市民参加の場づくりを行いました。



浅川で生き物調査



湯殿川清掃活動

## 東 部 地 区 環 境 市 民 会 議

### 東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、また、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。多摩ニュータウンで最初に整備された、別所地区の面積19.8ヘクタールの『長池公園』に続き、堀之内地区の面積5.2ヘクタールの地域が、『堀之内寺沢里山公園』として整備され、現在、最後の開発が行われている隣接の「19住区東山地区」も緑の保全を重視した計画が進められています。

さらに、堀之内の里山について、東京都の自然保護条例による里山保全地域に指定され、緑の保全が進んでいます。

大気と河川の水質については、八王子市全地区に係わることであることから、関係団体と連携してNO<sub>2</sub>の測定および大栗川・寺沢川・大田川の水質調査を継続しています。

### ■ 自然環境

今年も、「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春・秋に『自然観察会』を実施しました。

4月の自然体験講座は、由木中央小学校前バス停に集合し、玉泉寺から田の入谷戸を経て寺沢里山公園までの自然観察を行いました。また、10月の自然体験講座は、野猿峠バス停に集合し、中山丘陵から神明西谷戸を経て鑪水までの自然観察を行いました。



由木中央市民センターまつり



2010 八王子環境フェスティバル

これらの活動を、「八王子環境フェスティバル」や「由木中央市民センターまつり」、さらには八王子駅南口のサザンスカイタワー八王子の4階に開設された「八王子駅南口総合事務所」の多目的スペースなどを利用し、パネル展示して、市民に理解と協力をお願いをしました。

### ■ 河川・水質

河川の水質調査は、今年も6月6日に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、「大栗川」「寺沢川」と「大田川」の3河川で水質調査を実施しました。

そのなかで、今年、鑪水地区で『蛍の復活を図るビオトープ』が設けられたことから、その水質の実態を見極めるための調査を追加しました。

## ■ 大気汚染

毎年、6月と12月の2回、都内全域におけるNO<sub>2</sub>の調査は、今年も他の環境市民会議と協力し、データの収集を行いました。

今年の調査は、6月3日から4日にかけてと、12月2日から3日にかけての2回に参加しました。結果の数値については、データ集に示しています。結果の分析には他のデータも必要と思われます。これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

## ■ 美化・ごみ・エネルギー

南大沢駅周辺の新たな発展、そして乗降客の増加に伴い、駅周辺の美化活動、禁煙活動にも関心が高まっています。その一環として、南大沢中学校と青少年対策南大沢委員会が中心になり、地元商店街の「元気な街“南大沢”協力の会」も加わり、年に3回の「クリーン・デー」を実施しています。

なお、駅前に設置されている「22基のフラワーポット」の植替えや水やりなどの維持管理を「南大沢みどりのサポーターの会」が、毎月2回の活動日に行っています。



南大沢みどりのサポーターの会



不法投棄多発場所（松が谷トンネル脇）

また、ごみの不法投棄は、わずかながら減少傾向が見られますが、緑地や空き地が多くあることから、ゲリラ的に発生するので、不法投棄を減少させるためには、今年も継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、南大沢市民センターまつりにおいて、最新のごみ問題・プラスチック分別関連情報の展示と説明によるごみ分別キャンペーンを行うと共に、「不法投棄場所」監視活動を続けています。

## ■ 環境にかかわる実践活動

環境学習室との連携のもと、他地区の環境市民会議の協力を得て、『市立学校の環境教育支援活動』として「由木東小学校」、「松が谷小学校」、「上柚木小学校」に対して、大栗川、浅川などで実施しました。

『里山活動』は、長池公園の開園10周年を迎え、『長池里山クラブ』が併せて10周年の記念行事を行いました。

また、一昨年整備された「堀之内寺沢公園」でも『まちづくり里山楽友会』として活動が定着し、引き続き自然環境の保全と里山の継承活動が活発に行われました。



長池里山クラブの活動

## 地域行動編評価一覧

22年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

### <中央地区環境市民会議での総括評価>

河川では、パトロールに重点をおき、川の環境保全のための行政機関等との連携や自然体験講座「浅川ふしぎ探検」の開催、八王子浅川子ども水辺協議会の活動など、活発に進められた。

大気汚染観測では、10ヶ所の測定をデータ化した結果、環境基準値を上回る場所はなかったが、観測を継続する必要がある。

グリーンマップの作成により、まち中の環境ウォッチングの結果を記録するしくみはできたが、まちのみどりは減少する傾向もあって、公園の緑や街路樹を増加させる活動には至っていない。

路上のごみやたばこのポイ捨て禁止が定着し、まち中はきれいになった。

ごみの減量化と資源循環については、プラスチックの分別を重点に市民センターなどにおいて「環境コーナー」の取り組みを展開したほか、エコひろばを拠点とした省エネ教室では、温暖化防止センターの設立準備会

と連携し、南大沢文化会館での開催も実現したことで活動が拡大した。

### <環境推進会議での相互評価>

浅川での活動としては、巡回パトロールを主に、毎年実施している自然体験講座「浅川ふしぎ探検」やウグイの産卵の促進、また、外来種の分布調査など多岐にわたっており、その成果も大きいことから、引き続き、浅川の保全活動に取り組んでいただきたい。

また、22年10月に開始したプラスチックの資源化と資源物の戸別回収事業や3月5日に南大沢文化会館で開催した省エネ教室と環境講演における地球温暖化防止事業では、多くの市民に啓発できたことから、今後とも、本市の事業に貢献していただきたい。

### <北部地区環境市民会議での総括評価>

水・大気分野では継続的に測定を実施しデータを蓄積していることから、今後の環境を検討するうえで有効と考える。

ごみ分野では、定期的に不法投棄のパトロールを実施し、発見はもとより、速やかに市へ報告したことで、かなりの改善がみられた。

みどりの分野では、滝山城跡の下草刈りと遺跡・自然調査を、滝山城跡群・自然と歴史を守る会と共同で行ったほか、自然体験講座「道の駅八王子滝山から滝山城跡の散策ツアー」等、市民参加行事へ貢献できた。

少数の会員ながら昨年度に引き続き、環境フェスティバルへの参加や、小学校の環境学習支援、谷地川の清掃活動など、啓発活動も活発に行えたことから、今後は、会員の拡充に努めたい。

### <環境推進会議での相互評価>

会員数の問題を抱えながら、滝山城跡を中止としたみどりの保全活動や谷地川での水質検査や清掃活動など、継続的に実施されていることから、その貢献度は高い。また、以前から不法投棄の多い土地柄でしたが、巡回パトロールや市への通報などは重要となっていることから、引き続き実施していただきたい。

小学校への環境学習支援事業については、会員の拡充を図りながら、事業の推進に努めていただきたい。

### ＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

恩方・川口・元八の地域に分かれ、町会・自治会、事業者、学校と連携した活動が進められ、3地区は定例会を開催して情報交換や課題解決を行ってきた。

環境市民会議が発足して10年、地域に浸透しないジレンマ、活動するためのマンパワー不足は発足時から解消されず現在も続いている。活動を振り返ると、イベント対応や書類作成、会議参加など実践活動よりも事務的活動が多く、負担と覚えることが地域活動にも影響を及ぼしている中、恩方地区は活動を継続する負担の軽減が解決できないという理由から年度末で休止した。環境保全や実践活動の必要性を理解している地域でも活動を休止する背景には、活動は達成感や充実感が得られず、地域活動が多様化して実践面での人的不足が発生し会員の負担の増加や行政からの協力要請の在り方など負担となっている状況があり、こうした事態の解決に向け、環境市民会議の在り方、6地区の仕組みなど抜本的な見直しが求められている。

### ＜環境推進会議での相互評価＞

3地区に分かれ、それぞれの地域特性を活かした活動を行ってきたものの、恩方地区は会員不足などから活動を休止したことの影響は大きいと考える。

しかし、総合的には、これまで行ってきた活動を継承し、成果も上げていることから、1日も早く3地区の連携が図れるよう努めていただきたい。

その中でも、マイバックの普及実態調査やレジ袋削減アンケート、また、川口地区で行った井戸実態調査では、環境面はもとより防災面からも必要となることから、これからも工夫を凝らして取り組んでいただきたい。

### ＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

高尾山の自然保護をテーマに、環境変化を見るための指標樹木を写真で記録したほか、来山者の増加で自然を失う恐れやトイレ不足等の問題を訴えた。また、旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の運営等に対し、多くの人に親しまれる魅力ある施設とするよう市へ働きかけた。

エコミュージアム構想に基づき作成した「市街編」と「高尾編」のマップ、更には「地域の宝の掘り起こし」の取り組みを自然体験講座で紹介し好評を得た。

里山保全活動では、池の沢館町緑地にてホテルの観察会、自然体験講座や企業研修を実施し成果を得ているほか、河川水質検査や大気汚染測定、水質改善に伴う蛍の復活調査を行った結果を環境フェスティバルや市民センターまつりで展示し好評を得た。

環境教育支援として当地区の小学校を中心に、ごみ分野では公園の落葉や生ごみを堆肥化しているほか、いちよう祭りでは高校の生徒に対しごみ分別指導を行った。

### ＜環境推進会議での相互評価＞

高尾山の自然環境を守るため、指標植物の観察やエコミュージアムマップ「高尾編」の改訂に取り組んだほか、他の環境団体と意見交換を行うなど、今後も高尾山の良好な環境づくりに取り組んでいただきたい。

また、ごみ削減の啓発活動として行った浅川・長房・横山南の3つの市民センターまつりや環境フェスティバルをはじめ、いちよう祭りでは200名を超える高校生や大学のボランティアと一緒に資源物の回収を行うなど、各イベントでの活動の位置付けは高く、評価できることから、引き続き取り組んでいただきたい。

### ＜東南部地区環境市民会議での総括評価＞

「夏休み浅川自然体験講座」（イカダで川下りと川の生き物の調査等）と「秋の小比企自然体験講座」（磯沼牧場見学等）を実施したほか、みどりの保全では近隣自治会との連携で、独自のハイキングマップを使い地域の自然と歴史を親しんでもらえた。河川水質が安定している中、引き続き年4回の河川清掃を行い、親子の川の生き物と水質調査や川遊びなどのイベントを通して、美しい川・親しみやすい川・遊びたい川づくりに取り組んでいる。

また、一層のごみ減量を実現するため、市の組成分析のデータによる資源混入率の市民啓発、スーパーのマイバッグ利用促進の啓発活動やたばこのポイ捨て防止のための啓発に努めた。都市の美観では、「北野駅前の定期清掃活動」を継続して実施しているほか、地球温暖化防止を啓発するため大気汚染測定から大気の大切さの学習やケナフの苗の配布を行った。従来から定期的に行っている河川清掃や、学校・事業者による定期清掃の結果が半年ごとに行っている「きれいさ評価」に表れている。

### ＜環境推進会議での相互評価＞

定期的に取り組んでいる大塚山公園をはじめ、北野駅周辺や湯殿川の清掃活動は、地域貢献に大きな成果を上げていることから、活動を継続することで地元との輪が広がるよう期待したい。

また、環境学習活動の一環として実施した自然体験講座では、子どもたちを対象にした夏の講座では40名を超え、また、秋には30名を超える参加者が得られたと同時に、良い感想も得られたことは大きな成果であることから、今後も参加者が楽しめるような講座を工夫していただきたい。

### ＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

里山での活動をはじめ、春・秋の自然観察会では自然体験講座として堀之内地区を巡り、希少種の植物観察ができたが、関心が高かった秋の「巨樹・巨木めぐり」では、21年度に引き続き22年度も雨のため中止となった。

また、堀之内寺沢里山公園が整備され、長池公園と並んで2つの公園で公園アドプトに参加すると共に、継続して自然環境の保全と里山の継承活動を行った。

次に、南大沢と由木中央の市民センターまつりに参加し、ごみ減量啓発キャンペーンや東部地区環境市民会議の活動をパネル展示したほか、南大沢地区の年3回の「クリーンデー」への参加、南大沢駅前の花壇の維持管理など地域の美化に努めた。

また、小学生を対象に行っている環境教育支援活動では、由木東小学校、松が谷小学校及び上柚木小学校で行ったほか、大気汚染測定や河川水質調査は継続的に行った。

### ＜環境推進会議での相互評価＞

都市化が進んだこの地区の自然を身近に感じていただこうと実施した自然体験講座はとても重要な事業であり、年3回計画したことは評価できる。残念なことに1回は中止となってしまったが、新住民も多いこの地区では一人でも多く参加していただけるよう期待する。

また、啓発のための市民センターまつりや環境フェスティバルへの参加をはじめ、環境教育支援事業も活動の一環となってきたことから、環境意識の向上と地域貢献を図るためにも、継続的に取り組んでいただきたい。